



原小っ子

学校ホームページ <http://www.aomoricity.ed.jp/harabetsusyo/>

10月号
青森市立原別小学校
令和3年9月24日

創立70周年「原別小学校」のあゆみ①

校長 三浦 孝仁

いつの間にか夏が終わり、気づけばもうすぐ10月、秋まただ中です。

9月に予定していた修学旅行やスポーツフェスティバル（運動会代替）が延期となり、今、子どもたちは10月以降の学校行事を楽しみにしながら、めあてもって日々の学習に一生懸命取り組んでいます。

さて、今年、原別小学校は創立70周年を迎えます。本来であれば、記念式典等を行い、盛大にお祝いするところですが、コロナ禍の現状では、その開催等は断念せざるを得ません。そこで今回は紙面を通して、これまでの原別小学校のあゆみを少し紹介したいと思います。

今から144年前の明治10年、前身の「原別小学校」と「諏訪沢小学校」が創立されました。明治10年は、あの西郷隆盛率いる鹿児島の上級士族が反乱を起こした、いわゆる西南戦争が起きた年です。そう考えると、この地域に学校が創立されたときの人々の学校に対する期待の大きさを容易に感じることができます。原別小学校と諏訪沢小学校はそれ以降、この地の学校教育の礎を築き、数多くの卒業生を送り出しています。

2つの小学校は、昭和26年、それぞれを廃校・統合という形をとり、新しく「原別村立原別小学校」が開校されました。その年が今から「70年前」になります。当時は13学級、全校児童は593人で、現在より約250人ほど多い子どもたちが旧校舎で学んでいました。昭和26年といえば、第1回NHK紅白歌合戦の放送が開始されたり、朝日新聞で「サザエさん」の連載が始まったりした時期です。戦後の復興の確実な歩みを感じられる出来事がありました。

新しく創立された小学校のため、「校歌」「校章」「校旗」などを制定しなければなりません。最初に「校章」が作られました。校章の図案者は、当時、教頭だった千葉銀蔵氏（のちに2代目校長となる）です。その校章は「稲穂」「陸奥湾の波」「ペン」を組み合わせたもので「農家の子も漁業を営む家庭の子も仲良く団結して学習に励むように」という意味が込められています。校章はすぐに決められましたが、「校旗」と「校歌」の制定は、それから5年後になります。

昭和30年、原別村が合併により青森市となったため校名が「青森市立原別小学校」となります。

今回は、昭和30年までの「出来事」を紹介させていただきました。後半の出来事は後号でお伝えします。

なお、今回の紹介文は正式な記録としてではなく、あくまで「学校だより」としてお読みいただければ幸いです。



青森市では、9月末まで「部活動の休止」、「学校行事等の延期・中止」等の新型コロナウイルス感染症対策を実施しています。それによって、本校でも学校行事等の見直しを行いました。保護者の皆様にはご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

青森市内の感染状況は、以前より落ち着いてきたように感じますが、今後も基本的な感染予防対策をしっかりと行い、日々の学習はもちろん、学校行事にも取り組んでいきたいと考えています。ご協力よろしく申し上げます。